

巻頭言

共生社会文化研究所長 小川 浩

2019年4月に共生社会文化研究所が設立されてから、早いもので約4年が過ぎようとしています。この4年間で振り返ると、2020年12月からは、多くの時間が新型コロナウイルスへの対応に費やされたように思います。オンライン授業への対応に追われ、新たな研究や研修を手掛けることが厳しい状況もありましたが、オンラインで研究員提案事業のセミナーを実施したり、研究員と特別研究員の交流会を開催するなど、様々な工夫で事業を存続できたことは幸いでした。

またこの4年間は、ロシアによるウクライナへの侵攻、アジアにおける国際関係の緊張、新型コロナウイルス蔓延による人間関係の希薄化・孤立化、それに伴うメンタルヘルスの問題、少子化の進行など、社会が抱える課題が急速に変化し、深刻になっていきました。「先が見えない不安」が高まる今日ですが、大妻女子大学の中に「共生社会」の理念を掲げる研究所が存在し、情報を発信していくことの意義を改めて感じています。そして、情報発信の手段として、今年度、共生社会文化研究所の紀要を発刊できることは大きな喜びです。研究員はもとより、研究員と協働する外部の若手研究者や実践家が研究成果をまとめ発表する機会として、積極的に紀要を活用して下さることを期待しています。

最後に私事ですが、所長の任期を2期務めさせて頂きましたので、次の方に所長を交代させて頂くことになりました。手探りの歩みでしたが、研究員、特別研究員、そして事務の方々のご協力により、研究員提案事業もある程度軌道に乗り、念願の紀要も発刊できることとなりました。改めて皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。どうぞ、引き続き、共生社会文化研究所にご支援ご協力を賜りますようお願い致します。

